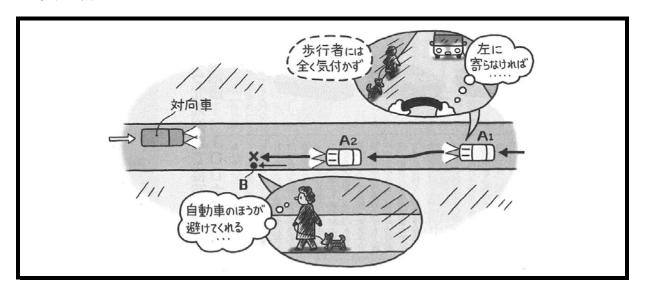
## ■事故の概況



事故類型:人対車両の背面通行中

発生日時:平日 薄暮時

当事者A:普通乗用車 60歳代 女性 当事者B:歩行者 40歳代 女性

## ■ 事故の概要

Aは勤務先からの帰宅途中、往復1車線道路を時速約30kmで走行していました。この道路はセンターラインがなく路肩も整備されていませんでしたが、自宅へ帰る近道であったこと、車両の通行量がそれほど多くないことなどから、日頃からよく利用していました。この日は陽が沈んであたりが既に暗い時間帯で、道路周辺は畑が続き街灯もなく夜間同様の道路環境でした。その時、進行方向から対向車が現われたので、Aは、道路幅があまり広くなかったことから、対向車とのすれ違いに意識を集中し走行しました。

一方、Bはこの道路左端をA車と同一方向へ犬を連れて歩いており、黒っぽい服装で、 道路環境からも目立たない格好でした。

Aは対向車を避けるために道路左端に車両を寄せた時、散歩中のBに全く気づかずに、 車両の左側ドアミラーを後方からBに衝突させてしまいました。

## ■ 事故から学ぶ

薄暮時に散歩やウォーキングなどのため道路を歩く歩行者が増えていますが、できるだけ遊歩道や歩道の整備されている道路を選んでください。

歩行者は対向車両や追い抜かれる車から早めに自分が認識されることが重要であり、歩道の整備されていない道路を歩かざるを得ない場合は、特にこのことがポイントとなります。そのためには薄暗い環境でもなるべく目立つような、明るく派手な色彩の服装であることが好ましく、さらに反射材が貼付けられた服装であれば、もし周りが暗くなってしまってもヘッドライトで照らされて認知されやすく、より安全です。暗い場所では、懐中電灯で足元を照らしながら歩くこともドライバーから認知されやすくなり、事故防止に有効です。